

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	医療法人 中沢会		
事業所名	グループホーム N・Sホーム		
所在地	群馬県前橋市下大島町596-1		
自己評価作成日	令和3年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年11月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の広い敷地内に病院と介護老人保健施設が設置され、医療面が充実している。法人全体で地域における認知症介護の拠点を目指している。グループホームは3ユニットあり、それぞれ個性のあるユニットになっている。入居様が主体となり、現役時の積み重ねた経験を活かし、職員に様々な知恵を授けアドバイスや指導をされている。(例えばらっきょう漬け、干し柿づくり、調理の下拵えなど)生活環境をあまり変えず、この地域の中で日々充実した生活が送れるよう、統一した支援を心がけている。食事や外出など個々の意見を尊重し、意思決定を大切にしている。入居様が生きがいを感じ、楽しく暮らせるホームを目指している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に職員間がまとまり、ユニットリーダーの個性を活かした実践が行われている。グループホームでケア向上委員会を開催する他、法人の運営する介護老人保健施設や病院の勉強会に参加して、身体拘束をしないケアの意識を高めている。食事の一連の支援では、利用者に野菜の皮むきや盛り付け等のできることをやっていただき、意欲やその人らしさを引き出している。そうした、一人ひとりの利用者の様子は、「NSホームだより」で写真入りで家族に届けている。コロナ禍で、日常的な外出支援が困難になり、ホーム内で過ごす工夫として、職員が図書館で日本各地の本や写真を借りてきて利用者に見ていただき、「若いとき京都に行った」「群馬の名物は」「昔はこんな道具を使って生活していた」など、昔の経験や楽しい思い出を回想できる機会づくりに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を常に念頭におき、特にその人らしさを大切に考え、日々の生活の中からその人らしく人生が送れるように、一人ひとりに合わせた介護をするように支援している。	6年前に理念を見直し、3ユニット共通のシンプルなものとした。職員は、利用者がどのような暮らしをしてきたのかである生活歴を大切に考え、その人らしさを見つけて、日々の生活に活かせるよう理念を意識した介護実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に声掛けをし、気軽に来所して頂けるようにしている。また、回覧板を活用し伝えるとともに、近隣にチラシ配りをして、事業所の納涼祭等の各種行事に、地域住民の参加を呼び掛けている。地域で開かれている祭りや敬老会等の行事に参加している。現在、コロナ禍の為、施設の行事、地域の行事への参加を中止している。	以前は地域の方にホームの行事に参加していただいたり、近隣の公民館で行われるサロンに参加したりしていたが、コロナ禍のため中止している。地域とのつきあいは、法人の地域交流活性化委員会で検討し、ホーム職員も一員となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々との意見交換を実施し、地域の高齢者様の現状を理解するとともに、発信出来る事は発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、ご家族、自治会長等が参加して2カ月毎に3ユニット合同で開催している。事業所の現状報告をはじめ、家族からの要望等、意見を出し話し合いを行いサービスの向上に取り組んでいた。現在はコロナ禍の為書面開催とし、電話連絡し議事録の作成後、送付しサービスの向上に取り組んでいる。	コロナ禍のため書面開催とし、行事・ヒヤリハット・委員会活動などを、詳細に報告している。以前の会議で、岩手県のホームでの水害事故が話題になり、当ホームの近くに川があるので、自治会長にアドバイスをいただいて、水害時の避難計画マニュアルの作成に取り組んだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や疑問に思う事は、市町村担当者に問い合わせるようにしている。	コロナ禍での運営推進会議の開催方法について、市に相談している。あわせて、コロナ禍における対応について相談・報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会に各ユニット二人づつの委員を選出し、けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修に参加し、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。	ホームで2～3か月毎にケア向上委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて話し合っている。見守りをしたり、福祉用具を工夫したり、スピーチロックをしない言葉かけ等学んだりしている。法人の勉強会にも参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会に各ユニット二人づつの委員を選出し、けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修に参加し、虐待の防止に全職員で取り組んでいる。身体に対する虐待、言葉による虐待、十分に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修会に参加し、活用出来るように支援している。現在、コロナ禍の関係で、けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修会に参加する機会が減ってきているが、オンラインを活用し支援出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時、介護保険制度改定、利用料改定時にはご家族の方に十分な説明を行い、細かい所も理解して頂けるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ユニットそれぞれに苦情担当を決めて、玄関に苦情箱を設置している。平行してご家族の来所時の対話を大切に、意見や要望を聞き取るようにしている。現在は、コロナ禍の為、電話を活用し意見や要望を聞き取るようにしている。	コロナ禍で家族との面会ができず、家族からタブレットでの面会をさせてほしいとの要望があり、そうしたことをうけて、面会方法を検討しインターネットの環境を整えタブレット面会を実施した。また、外と接している大きな窓を利用しての窓越し面会も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は3ユニット合同会議に出席し、職員との意見交換を行い状況把握を行っている。現在は、コロナ禍の為、管理者が3ユニットを歩き来し、意見交換をし運営に反映させている。	管理者が、各ユニットに出向いて、職員から意見を聞いたり、現場環境を確認したりしている。利用者が重度化するなかで、シャワーキャリー導入の希望が出され、管理者が法人に要望し、購入につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各ユニットの状況を把握し、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修がある際には、積極的に参加を促している。上毛病院やけやき苑の勉強会も定期的に開催し法人内の研修に積極的に取り組んでいる。コロナ禍の為、オンライン研修、DVD資料を配布し、自宅学習を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他の施設の見学、研修の機会を設けるよう促している。見学研修後は文章に残し他職員へも情報提供しサービスの向上に取り組んでいる。現在はコロナ禍の為、オンライン、電話会談など交流の機会作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご本人様の状態(身体面・精神面)を確認させて頂き、安心して入居して頂けるようにしている。グループホームでどのような生活を望まれているか、要望等聞かせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時に、御家族様がお困りな事、不安、要望等をお聞きする事で信頼関係を築くよう努めている。また、その都度お困りな事があれば、いつでもご相談くださいとお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用される方の状態等を見極め、状況により他施設等、紹介する対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には無い生活上の知恵をお借りしたりする事により、お互いを相互に高めあえる関係を模索する関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見やクリスマス会などの行事や家族会に参加して頂き、一緒に楽しんで頂いたり、悩みをお聞きしたり、利用者様が喜び、笑顔で一杯になる姿を共に大切にしている。現在コロナ禍の為、行事等開催する事が出来ず、会う機会が減少しているが、窓越しで面会、オンライン面会の環境を整え家族とのひと時を大切にしている。個人の近況報告、写真付き手紙等を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始お盆の外泊をすすめたり、思い出の土地へドライブに行ったり、家族や友人の訪問を奨励して、馴染みの関係継続の支援に努めている。現在コロナ禍の為、従前の支援等実施出来ずにいる。前橋市の本、地域の本を見ては、昔の思い出を友人たちの代わりに傾聴している。	図書館で借りた本を利用者に見ていただき、家族や友達と大阪や京都に旅行に行った、北海道のカニを食べたいなど、昔のことを回想し楽しそうに話せる機会づくりをしている。また、昔使った道具や生活の様子を職員に教えてくれるので、傾聴するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずにレクリエーションや会話に参加して頂けるよう、職員が間に入り、ご利用者同士が関われるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係性を大切に、サービスが終了しても相談や支援に努める様になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に希望を伺い意向を取り入れる。その方一人一人の生活歴や趣味を考慮し、ADL低下防止に努めその人らしい生活が出来るよう支援を行う。その人その人に寄り添い気持ちを汲み取るよう努めている。	思いや意向をあえて聞くのではなく、日常どのような場面で笑顔になるのかから、その人の思いを汲み取るようにしている。利用者が不安を感じた時には、「大丈夫、私たちがいます」と伝え、まず不安な気持ちに寄り添って傾聴するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様一人一人の馴染みのある家具や思い出のある品をお持ち頂き生活環境の変化を少なく努めている。生活歴の把握にも努め一人一人の理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活からご利用者様一人一人の状況を把握し、健康状態のわずかな変化にも気づけるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成においては、日々の記録、ご本人やご家族の希望を参考に話し合い計画作成している。また、月に一度ケア会議とモニタリングを行いご利用者本人にとって、より良いプランになるよう職員全員で取り組んでいる。	利用者の担当職員が決まっています。ケアプラン作成に加わっている。4ヶ月毎のケアプラン見直し時には、家族にケアプランへの満足度について電話や書面にて意見をいただき、次回ケアプランに反映できるよう工夫している。	担当職員が作成する課題目標設定や目標達成度シートと介護サービス計画書、日々の介護記録が連動されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、またご利用者様のさりげない変化や工夫など個別記録に記入し、職員間での情報の交換や共有をしながら実践や介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、日々の生活の中でその都度発生するニーズに対し、職員間で常に情報交換し、話し合い対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員の方に出席して頂き、地域のイベント情報など話して頂いている。学生ボランティアの方々に協力しながら、本人が持てる力を発揮し、日々の暮らしを楽しんで頂けるように支援している。現在コロナ禍の為、運営推進会議、学生やボランティアの方との直接的な交流は行えていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望医療機関を確認している。現在は全員が併設病院の医師がかかりつけ医になっており定期的に往診を受けている。眼科等専門医への受診は原則家族対応であるが、できるだけ看護師、介護職が対応している。	併設する病院がかかりつけ医になっており、3週間毎に往診を受けている。体調が悪い時はすぐに連絡が取れる体制になっているので、家族の安心につながっている。ホームには看護師がおり、往診時の家族への報告など、医療に対する支援が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の日々の体調の変化や気付いた事を看護師に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に至るまでの状態、日々の様子等を病院に伝えている。又入院中については新型コロナウイルス感染症の為、病院内の立ち入り制限があり、電話等で状態を確認したり、ワーカーと連絡を取り退院時期その他の情報を頂いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を指針に定めている。入居時に事業所で出来る事を十分に説明し、家族と方針を共有している。見取りに関しては、医師、家族、管理者、看護師、介護士で話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。	以前は、併設する病院があるので看取り介護は行わなかったが、家族より「最期まで看てほしい」との要望を受け、看取り介護を行った。今後も看護師を中心に看取りの研修を行い、生活の延長としてホームでできる看取りケアを行っていく考えである。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上毛病院やけやき苑の応急手当や初期対応の勉強会に参加し、訓練も行い身につける様、定期的実施している。前橋市消防局主催の普通救命講習も受けている。現在コロナ禍の為、リモート講習や動画視聴など、講習を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1号は単独で、2号と3号は合同で昼間及び夜間を想定した避難訓練を行っている。総合訓練は、年に1回消防署の指導を受け、敷地内にある上毛病院とけやき苑と合同で実施、水害時避難訓練も行っている。法人として地域の参加も呼びかけ、備蓄の非常食を試食して頂いているが、コロナ禍で行えていない。	火災の避難訓練は年に2回、老人保健施設と合同で行っているが、今期からは水害時の避難訓練も取り入れた。地域への参加呼びかけは法人として行っており、コロナ禍以前は「防災の日」に備蓄している非常食の試食会に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄など羞恥心への配慮を心掛けている。一人ひとりの自己決定を尊重しながら、相手のペースに合わせた対応を心掛けている。	敬意をもって利用者に接し、声のトーンに注意して、目線を合わせた対応を心掛けている。入浴や排泄時などには、羞恥心への配慮をし、本人の希望により同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の表出した言動を繰り返したり、意図的に波長合わせを行い、利用者が抱えている心配や、悩み等の思いを発見出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が施設で安心して暮らせるように、利用者が使用していた生活用品などを持ち込み、よりくつろげる環境を整備するうえで、出来る限り安心して過ごせる空間づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の洋服選びや、入浴、就寝時の着替えの準備の際、利用者の意欲を尊重しながら場面に即した洋服選びが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が摂取しやすいように調理法を工夫したり、利用者の好みを尊重した食事作りをしている。又、野菜の皮むきや、盛り付け等自立度を見極めながら、利用者を確認したうえで、職員と一緒に取り組めるよう行っている。	ユニット毎に、食事作りをしている。その日の食事担当職員は冷蔵庫の中の食材を見て、メニューを考え調理している。利用者は、野菜の皮むきやサラダのドレッシングを混ぜたり、盛り付け、テーブルや食器を拭いたりなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を記録し栄養バランスを考えた食事作り、水分摂取を心得て支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて歯磨きの声掛け、見守りを行っている。又夜間義歯を預かり、衛生管理の為消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握しながら声掛けや見守りを行いそれぞれに合わせた排泄の支援を行っている。夜間オムツを使用されてる方も昼間はトイレへの誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	トイレで排泄が行えることが、利用者の尊厳を守る事と考え、自立に向けた支援を行っている。おむつ着用者はおらず、日中は定時でトイレ誘導しているので、排尿記録はつけていない。夜間はゆっくり休んでいただくため、おむつ対応の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂きお茶の嫌いな方には好みの物を提供している。又バランスのよい食事を提供し、日中ラジオ体操、レクリエーション等の運動に参加して頂き便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3日行っている。入浴剤を使用し季節の香りを楽しんで頂けるように、ゆずなど使用する事もある。湯の温度や入浴時間、タイミングも本人の希望に添うように支援している。	お湯張りは身長に合わせ、湯の温度は体調を考慮した上で、利用者の希望に合わせている。「一番風呂に入りたい」などの希望は、他の利用者に配慮しながら支援している。シャワー浴の場合は、足湯に浸かりながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に、休んで頂いて。夜間不眠があり起きている方には、会話対応を行い安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬を把握し、変更時には伝達ノートに記入し、職員間で情報を共有している。又医師や看護師より説明を受け症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る事の喜びを味わって頂けるよう、モップ掛けや洗濯たみ、お盆洗い、食器拭きなどして頂いて。役割分担を行い、楽しみながらして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に事業所の敷地内や、近隣の住宅付近を散歩している。現在コロナ禍の為、以前に行っていたマイクロボスを借りて、敷島公園、県庁、買い物、前橋祭りなど外出行事が出来ないが、図書館の本を月に二度職員が借りに行き、都道府県の本を見ながら行きたい場所、希望を探し何時でも出掛けられるよう準備している。	コロナ禍のため、外出支援が困難になっている。そのため、室内で出来るベンチサッカー、シュートゲーム、玉入れ、認知症予防体操など、体を動かすレクリエーションを行っている。敷地内の散歩はしているが、外へ散歩に出かけて、地域の方々と挨拶ができることを望んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じ、所持を希望される方には、外出時に買い物等して頂ける様、支援しているが、現在新型コロナウイルス感染症の関係で、自粛している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合の良い時間に合わせ、ご本人が掛けたいと希望された時に電話をしている。又、季節ごとのハガキでのやりとり等出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい大きさのカレンダーや利用者様同士で作成した季節ごとの貼り絵を飾ったり、正月、雛祭り、七夕、お月見、クリスマスなど季節の飾り付けを利用者様と楽しく行い、居心地よく過ごせるようにしている。	大きなカレンダーを利用者と一緒につけて壁に貼り、毎日、日付や曜日の確認を行っている。居室やトイレなどは、場所がわかるように花の名前が入った名札や目印を貼っている。ホールには利用者みんなが集まり、職員と一緒に話をして、居心地よく過ごせる環境にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには6人掛けの椅子を置き、皆様がお話を楽しんで頂けるようにし、その後ろ側に同じくらいのスペースを設け、外を眺めながらのんびりと、ひとりでも過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やご家族の写真、ご自分の作品等を飾り、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	居心地の良い居室づくりとして、それぞれの居室には愛用の家具や思い出の品を置いて、自宅にいた時と変わらないようにしている。安全への配慮として、居室入口の戸の側に手すりを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室入口の戸の側に手すりを設置したり、トイレや居室には分かりやすいに大きい文字を貼って、利用者様が確認出来るようにして、安全に自立して生活して頂けるよう工夫している。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を念頭におき、理念であるその人らしさや地域との交流を意識しながら従事している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と散歩に出かける際地域の方に挨拶などの声掛けを行い、気軽に寄って下さる様にお話をしている。イベントを行う際には来訪して頂ける様チラシを配ったりしていたが、現在コロナウイルス感染予防の為にできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方のご協力や回覧板を活用しホームでの様子を知って頂くことで認知症への理解をして頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度3ユニット合同で定期的に運営推進会議を行い、家族・自治会長・民生委員・包括支援センターの方に参加して頂き、意見や情報を提供して頂いている。コロナ禍のため書面開催の形で活動状況を報告、意見を伺いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等はその都度市の担当者に連絡し、法改正や他施設のことなど情報提供して頂いている。運営推進会議で情報や意見を頂けることが多く、連携を図りながら運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会に各ユニットから2人が所属している。法人内で開かれる勉強会では質問式のプリントを配布し、回答した後、回収し全職員が身体拘束をしないケアについての意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会に所属している職員が主導し、法人内で開かれる勉強会で質問式のプリントを配布し回答を記入した後、回収し全職員が虐待防止に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や外部での研修会に参加し制度を活用できるよう支援しているが、現在はコロナ禍のため研修できていない。オンラインでの参加のみしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時退居時・介護保険制度改正や利用料金改正時にはその都度説明を行い、同意書を頂きながら理解納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットそれぞれに苦情処理担当者を配置し、玄関に苦情箱を設置することで家族の意見をケアや運営に反映させて頂いている。現在コロナ禍にて家族が来所できない為、電話で利用者様の様子を伝える際ご意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を交え3ユニット合同の全体会議を開催し、意見交換を行っている。現在コロナ禍のため合同会議ができないが、意見や提案をその都度個々で管理者に相談し、その後他職員に伝える様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はユニットリーダーとの連携により、職員個々の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内で研修がある時には積極的に参加できるよう職員に呼び掛けている。現在コロナ禍のため行えていないが、外部の研修にも参加しやすい職環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は職員が他施設に見学に行き、交流を深める機会を設けている。また、同業者との交流で得た情報を文書で残し、他職員との情報共有を行っている。現在コロナ禍のため他施設への見学はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問行き安心して来て頂ける様に配慮している。本人から希望を伺い、添う様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前又は入居時にご家族様に心配な事、困り事を伺っている。今後についても話し合い、意見交換も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた方には要望を伺い、出来る限り良いサービスが受けれる様、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の人の知恵や家事のアドバイスを教えて頂きながら、職員は利用者と生活を共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までは季節行事や家族会、推進会議で意見交換を行っていた。今は新型コロナウイルス感染の為、ご家族と連絡を取り合いながら、良いケアに繋がる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の納涼祭や敬老会等に参加されたり、思い出の場所への外出、お盆正月の帰省への支援をすることで関係継続に努めている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のやり取りで状況に応じて職員が間に入り、スムーズにコミュニケーションがとれる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても現在コロナ禍の為、電話やリモートなどで相談を受けたりと支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や趣味など考慮に入れながら、どのように生活していきたいかの意向の把握を行っている。またADLからご本人のできる動作を把握し、ご本人が希望する生活に近づけるための支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や思い出の品物を持って来て頂き、家族からよく聞いて良いケアに生かせる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの毎日の日常生活の過ごし方や体調の変化を観察し、すぐに気付ける様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回モニタリングを行っている。ケアプランの見直し時期には、ご家族やご本人に希望を伺い、より良い介護計画になるよう職員全体で話し合いケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子、体調の変化やリスクに繋がる事を記録に残し、ケアプラン見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、日々の生活の中でその都度発生するニーズに対し、職員間で話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の為、電話やリモート等で地域資源を把握し支援に努めている。月一回の訪問理容の方が来訪し、身だしなみを整える機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員が併設病院かかりつけ医としており、2週間に一度の往診を受けている。皮膚科、眼科等の専門医への受診は家族対応での受診となっているが、利用者の状態観察 把握を行い、適宜受診に繋げられる支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の日々の体調の変化や気付いた事を看護師に報告、相談し利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院に至るまでの経緯や日々の過ごし方を病院職員に伝えている。入院中においては看護職員や介護職員が病院に伺い、状態を確認したりして退院時期の情報などをワーカーより得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を定めている。入居時に事業所で出来る事を十分に説明し、家族と方針を共有している。看取りに関しては医師や家族、管理者、看護師、介護士で話し合い、連携を持ったチームケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われている応急処置や救急救命の講習会に参加し、AEDの使用方法も学んできている。前橋市消防局の出張講座で普通救命の講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1号は単独で 2、3号は合同で昼間・夜間を想定した避難訓練を行っている。水害時の避難誘導訓練も行っている。同一敷地内の介護老人施設や病院の職員にも声を掛け合い、協力して避難することとしている。また、消防署による指導も受けている。法人で備蓄品の試食会を行っているが、コロナ禍のため行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき1人ひとりの誇りとプライバシーを尊重しながら支援している。トイレや入浴時等もプライバシーに十分配慮し、出来る所は自分のペースで残存能力を活かしながら行って頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らし方やレクリエーション、食事の希望を伺う様にしている。自分で決められるような工夫を個々の利用者ごとに行い、納得し満足出来る住環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、一人でゆっくり過ごしたい方、音楽を聴きたい方、歌いたい方、製作活動をした方など、それぞれの希望に沿った物に対応出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む髪型になるよう整えたり、好みの衣類を選択出来る支援や髭剃りをし清潔に整える支援など行っている。外出時には希望される方にはお化粧をするお手伝いもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には季節に合った食材やメニューを提供している。また、調理の下ごしらえやお盆拭き等、出来る事を活かして頂いている。職員が一人同じメニューで食卓を囲み、楽しい食事の時間を共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を各時間毎に記録に残し、栄養摂取が適切になる様にしている。夏場は冷たい麦茶・ポカリも常備しておき、いつでも水分摂取が出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じ、毎食後に歯磨きの声掛けを行ったり、見守りをしている。夜間は義歯をお預かりし衛生管理のために消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お手伝いの必要な方に関しては、排泄パターンを把握し適宜、トイレの声掛けを行ったり見守りを行っている。リハビリパンツから布パンツへ移行できるような支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分補給、消化の良い食物の取り入れ方を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの利用者様が週に3度入浴する機会を設けている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節に合った入浴を楽しんで頂くような工夫も行っている。湯温や入浴時間など、体調等の配慮も行いながら、なるべくご本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じ、休息・安眠の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携し、症状の変化に対応し職員同士情報を共有しあう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事を行ったり、全員で行うレクリエーションで気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には敷地内や近所の公園までの散歩を行ったり、テラスでの外気浴を行っている。公園での花見やショッピングセンターへ出掛ける時は、事前にご家族へ連絡し参加して頂ける事もあるが、現在はコロナ禍のため要望に答える事は難しい。また出来る様になった時はご家族と共に楽しんで頂ける支援を行う。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、ご家族と話し合いの上で担当職員が購入させて頂いている。現在はコロナ禍の為、外出等が出来ていないが、コロナが落ち着き、外出可能になった際はご自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしても大丈夫な時間帯をあらかじめ伺っておき、ご本人が希望された時には電話を掛けられる様にしている。また、行事など利用者が楽しんでいる様子の写真をご家族に送ったりさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が協力し合って作成した季節の壁面装飾を飾ったり、季節の飾りつけも職員・利用者と一緒に力を合わせて楽しんで行っている。また、明るさや温度など快適な物となるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごす際には利用者同士で和やかな時間が持てるよう座席配置を工夫したり、時には職員が間に入って楽しくコミュニケーションがとれる支援をしている。また、ひとりで過ごせる時間も持てる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスやご家族の写真や本人の製作作品等を安全面も確保した上で配置し穏やかに安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全て段差が無い様にし、廊下には手すりを設置している。また各居室の前に利用者の名前を付けたり、トイレのドアの色を目立つ様に変えている事で安心して自立した生活を維持出来る様な工夫をしている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「その人らしさ」を大切に考えたケアの実践のため、職員間で情報共有し、ケア会議等で話し合い、ケアプランへと反映させ日々のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶や会話をし、気軽に来て頂けるようにしている。又、回覧板や近隣にチラシを配布し事業所の納涼祭等の各種行事に地域住民の参加を呼び掛けている。地域で開かれる納涼祭や敬老会等の行事にお誘い頂き、参加していた。コロナ禍のため現在は、参加を中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方との意見交換を定期的に実施し、地域の高齢者様の現状を理解し発信出来る事は発信している。現在は、コロナ禍で意見交換が行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、包括職員、自治会長、ご家族等が参加して2カ月毎に3ユニット合同で開催。事業所の現状報告をはじめ、地域の状況、包括への質問、ご家族からの要望等、意見を出し話し合いを行いサービス向上に取り組んでいる。コロナ禍で現在開催は中止しているが、市に相談の上書面開催という形で事業所の状況等を報告、意見等を頂きサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や疑問に思う事、法改正時や他のグループホームの状況など、市町村担当者に問い合わせる様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内のケア向上委員会やけやき苑、上毛病院の勉強会及び外部の研修会に参加し、身体拘束をしないケアの理解を深め、全職員で実践している。玄関は、センサーで対応・確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会に各ユニット2名ずつの委員を選出し、勉強会等を開催している。その他、けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修会に参加し、不適切なケアについても学び虐待の防止に全職員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	けやき苑や上毛病院の勉強会及び外部の研修会に参加し職員間で共有し、それらを活用できるように支援している。コロナ禍のため、勉強会や研修会が中止となる事が多いが、リモートを活用して参加し、支援に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、介護保険制度改定、利用料金改定時にはご家族の方に十分な説明を行い、細かい所も理解して頂けるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ユニットそれぞれに苦情担当を決めて玄関に意見箱を設置する他、来所時の対話を大切に、意見を反映している。また、入居時に公的相談窓口の案内も行っている。コロナ禍のため現在は電話にてご家族に利用者様の状況を報告し、意見や要望を伺っている。利用者様の要望等は、日常の会話時に伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は3ユニット合同の全体会議と各ユニットの会議に出席し、職員との意見交換を行い状況把握をおこなっていたが、コロナ禍のため現在は各ユニット毎に意見や提案を話し合い、各リーダーより管理者へ報告を行い、改善すべきところがあれば、それを管理者が法人に伝え反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各ユニットの状況を把握し、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、資格習得や法人内外の研修がある際には、積極的に参加を促している。上毛病院、けやき苑の勉強会も定期的開催し積極的に取り組んでいるが、現在、コロナ禍のためDVD資料を配布したり、オンライン研修を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他の施設の見学、研修の機会を設けるよう促している。見学研修後は文章に残し、他職員へも情報提供しサービスの向上に取り組んでいる。コロナ禍のため現在は、オンライン等で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	例年、事前訪問や入所希望で来訪された際、不安な事や困っている事、グループホームでどのような生活を望んでいるのか要望等をお伺いしている。現在コロナ禍のため、来訪されても見学は行っていない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様がお困りな事、不安や要望等お聞きし、思いを汲み取り、安心して信頼して頂ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用者様によっては、他サービスも含めて、より適当な支援方法を提案する等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等職員と共に行ったり、生活の知恵を教えて頂いたりし、暮らしを共にする者同士の関係を築く環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や3カ月に一度のグループホーム新聞で日頃の様子をお伝えしている。現在コロナ禍のため、窓越し面会やリモート面会をご案内し、直接的な面会が困難でもつながりを深める事ができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や年末年始の外出・外泊をすすめたり、思い出の地へのドライブへ行ったり、友人や親類の訪問を推奨していたが、現在はコロナ禍にて直接的な交流が困難な状況が続いており、窓越し面会やリモート面会を推奨している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席を考慮したり、職員が介入したりして、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も状況に応じて、ご家族や関係者と連絡を取り合い、必要な時には、相談や支援に応じるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前より、生活歴や趣味、習慣の情報収集を行い、ご家族やご本人から望まれる生活の意向を伺っている。また、日々の言動や表情からも思いを汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具等を持ち込んで頂いたり、親しい方との手紙のやり取りをして頂いたりしている。経過を知る事でホームでの暮らしも穏やかになるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の中で、どのような行動をされているかの観察を行い、記録やケア会議の場面で共有していく事で、職員が統一した把握をできる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアプランが実施できているか、現状とケアプランの内容が合っているかのモニタリングを行っている。また、ケアプラン見直し時期には、ご家族やご本人に、どのような生活をしていきたいのかの希望を伺った上で、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、身体面・精神面で変化があった事は、記録に残し、その状態に合ったケアを提供した結果がどうであったかも職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設との情報交換を行いながら、今まで当施設では行ってきていなかったサービスについても提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため、運営推進会議他、地域のイベントなど行っておらず、書面にて対応させて頂いている。その他、専門学校の学生やボランティアも感染の状況が落ち着き次第以前の様に協力して頂き、日々の暮らしを楽しんで頂ける様支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、希望医療機関を確認している。現在全員が併設病院の医師により診療が行われており、定期的に往診を受けている。眼科等専門医への受診は、原則家族対応であるが必要に応じて看護師、介護職員が対応している。コロナ禍のため、現在は看護師、介護職員が対応。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の日々の体調の変化や気付いた頃を看護師に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に至るまでの状態、日々の様子等を病院に伝えている。又、入院中については病院に介護職員が足を運び状態を確認したり、ワーカーと連絡を取り退院時期その他の情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての指針を定めている。と入居時に事業所で出来る事を十分に説明し、家族と方針を共有している。看取りに関しては、医師、家族、看護師、管理者、介護士で話し合いを行い、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上毛病院、けやき苑の応急手当や、初期対応の勉強会に参加し、訓練も行い身につける様、定期的を実施している。前橋市消防局の出張講座で普通救命講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1号は単独、2・3号は合同で昼間・夜間を想定した火災時の避難訓練を実施、消防署の指導も受けている。年1回水害時の避難誘導訓練も行い、同一敷地内の介護老人保健施設や上毛病院の職員にも声を掛け合い協力して避難することとしている。法人として地域にも呼びかけ非常食の試食を行っているが、コロナ禍で中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念に基づき、利用者様一人ひとりのプライバシーを損ねないよう、思いやりのある態度で接するように心掛けている。入浴やトイレの介助の際は、利用者様のペースや状況、力に合わせて、声掛けや見守りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方やレクリエーション、食事の希望を伺うようにしている。また、利用者様ご自身で決められるよう支援したり、納得しながら暮らして頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一人で過ごしたい方、歌を聴きたい方、テレビを見たい方、歩行運動を希望される方、それぞれに対応し、その人らしい暮らしができる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みの髪型や日々の洋服選び等、お手伝いをさせて頂く等の支援をしている。月1回訪問理美容店を利用しているが、現在は、感染状況によって、利用しない月もあり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、季節に応じた食材を利用したり、利用者様の嗜好、バランスを考えたメニュー作りをしている。また、お盆拭きやテーブル拭き等、一人ひとりの能力に応じ出来る事をして頂いている。食材の買い出しに利用者様と一緒に行き選んで頂く事もあったが、現在、コロナ禍で出来ていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や、水分量を摂取毎に記録し、栄養や水分が適切に確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。水分量が少ない方には、ご本人希望の飲み物を用意し希望時や、朝・夕とペットボトルに入れ替えてお渡しし、摂取して頂き対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、歯磨きの声掛けや見守り、介助を行っている。また、夜間、義歯をお預かりし衛生管理のため消毒を行っている。又、上毛病院内の歯科衛生士が訪問し、口腔内チェック、指導、治療にも対応している。(治療の際は、ご家族に報告、確認の上)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声掛け、見守り、案内を行い、ADLの状態に応じ介助等行う。又、細めに声掛けを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は、ラジオ体操や歩行運動等を行い、参加して頂く。又、食事は繊維の多い野菜や葉物野菜を召し上がって頂く。水分とうも多めに摂って頂ける様、声掛け行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週3日行っている。ご本人の希望の湯温で、ゆっくり入浴できる様にしている。又、ご本人の希望時には、湯には浸からずシャワー浴対応も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に休んで頂く。夜間不眠や不安があり起きている方には、会話対応や傾聴を行い安心して眠れるよう支援行う。日中、身体を動かすレクリエーション等を行い、夜間、安眠出来るように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服を行う時刻(朝・昼・夕・眠前)や内服薬を把握し変更時には、伝達ノートに記入し職員間で情報を共有する。名前の確認はもちろん、それぞれの飲み方で、きちんと飲み込めたか確認している。体調や症状に変化がある時は、看護師に報告を行い、服用の指示を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る事の喜びや張り合い、必要性を持って頂ける様、床の掃き掃除、洗濯物干し・たたみ、お盆拭き等をして頂き、役割分担を行い楽しみながらして頂ける様、支援している。時には、職員によるフルート演奏を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や買い物レク、近所の公園まで散歩したり等の支援を行っていたが、コロナ禍のため、現在は天候の良い日に個別や少人数で敷地内を散歩したり、ゴミ捨てのお手伝いをして頂き、外気に触れ季節を感じて頂ける様対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談をし、個別に対応している。ご自分で管理ができ所持を希望される方には、必要物品等購入支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望時、ご家族等への電話が出来るよう支援している。又、写真付きの手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい大きさのカレンダーや、利用者様と作成した壁飾りを飾ったり、季節を感じられるようなものも飾っている。又、その方にとっての不快な音や光に配慮し、居心地良く過ごせる環境づくりを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の弾む利用者様同士は、食堂の席を近くにし、会話を楽しんで頂いている。テレビ前には一人掛けソファを用意し、自由に利用して頂き、個々の時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人が使用していた馴染みの物(家具・壁飾り等)を、安全面も含めご家族と相談しながら持参して頂いている。ご家族からの贈り物や写真等も活かし、ご本人が安心して過ごして頂ける様な居室づくりを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室入口の戸側に手すりを設置したり、トイレや居室には分かりやすい位置に目印や名札がある。壁の色と居室の戸、トイレの戸の色を分け利用者様が確認できる様にし、安全に自立した生活を送れるよう工夫している。		